

「高知県のよさ」

I さん：私は福井県出身ですが、高知の食べ物のよさと自然の豊かさを考えたら、子どもをこちらで育てないといけないと思い、高知の住民になりました。高知は食べ物がおいしいので、離れられなくなってしまいました。それくらい本当に食が充実しています。来た頃にいろいろな人に「高知ってどうぞ」と聞かれたときに「やっぱりおいしい、おいしいよ」と私は盛んに言いましたが、その当時は加工品が本当に少なかったです。それが、気がつけば少しずつラインアップが充実してきました。土佐市では、ウルメを売り出そうと青年部が頑張っていたり、「宇佐もんマップ」でお店の地図を作ってみたり、文旦・トマトを作っていたり、本当に頼もしく思っています。

そこで、県を挙げたツーリズムの中に食が入ってくるときに、空港からのアクセスを考えると、どうやってそこに行きたくなる仕掛けを作るのが、すごく大事になってくると思います。何気なく普段の生活の中にあるものがすごくいいというのが、高知の良さだと思います。無理して作っていないところが本当の良さではないか。県外の大学に通う子供が「高知はえい。惣菜にしても何でもえい。スーパーの質が高い」と言っています。そういう生活の良さを知ってもらえるような仕掛けができるといいのかな。普通のお店で普通に買い物して、2～3日滞在していたら、もう高知から離れられなくなると。そんなリピーターがつくのが高知の良さではないかと、いつも思います。

このアクションプランに、高知の強みとして食と自然と歴史という三つが挙げられていますが、その強みが全然肩に入っていないのが高知の一番の強みではないかなと思います。自然と歴史にしても、普通にきれいな川があって、普通に高知城を見ているんですが、こんなお城が残っているところはないです。その普通の生活観を、みんなが大事にし合えたらいいいつも思っています。無理のない、今をよりよく暮らしやすくできる仕組みづくり・案内づくりが一番いいのではないかと思います。

知事：強みに肩の力が入っていない、普通のところがいい、そうでしょうね。高知は、暮らしに関係するものと歴史がいいと思います。観光戦略としては、滞在型・体験型的な、いわゆる暮らしを味わっていただくようにしないといけないと思います。ただ残念なのは、滞在した人、長くいた人は大体分かってくれますが、あまり知られてない。来てくれないから味わってくれない、その良さに気づいてもらえないところが結構あります。食べ物がおいしいところのアンケート調査も1位・2位ですが、それは実際に来た人にとったらそうだったんです。ただ、来ている人は少ないです。行ってみたら実はいいところだった、みたいなどころがある。だから、そのいいところをどうやって観光パンフレットで売っていくのかも重要です。それだけではなく、どうやって行けるのかがはっきりしていること、行った先で4定といわれる、定時・定量・定額・定品質を確保して、場合によってはガイドさんも置くなどトータルで味わってもらえるシステムを作っていくことだと思います。営業ツールとして公式ガイドブックを作り、上手に対外的なPRをすることも重要だと思います。強みは「食・自然・歴史で、あとは人・文化なんですよ」と言い続けていくことは私の大きな仕事だと思いますし、多くの皆さんにそういう輪を広げることが重要だと思います。

